

平成 31 年 湖西市議会 3 月定例会

市長施政方針

平成 31 年 2 月 20 日

(はじめに)

本日、平成31年3月定例会、改元を控え、平成最後の定例市議会が開催されるにあたり、『新たな年度に向けた市政運営にあたっての基本的な考え方』と『主要な施策の概要』を申し上げ、市民の皆様をはじめ、議員各位の一層のご理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。

(1 市政運営にあたっての基本姿勢)

市長就任から、あっという間に2年がたちました。

就任以来「全力投球」をスローガンに、5つの旗として、1点目は子育て・教育に『幸福度日本一のまち』、2点目は、まちづくりとして『人口減少に歯止めをかけ、活気あるまち』、3点目は福祉が『日本一思いやりのあるまち』、4点目の防災は『いのちを守る』、5点目の産業は、『エネルギーなまち』を目指すこととして、市政に取り組んでまいりました。

これらは、いずれも重点事項とし、常に念頭に置いて今般の平成31年度予算編成に臨んだところであります。

今後も、初心を忘れることなく、「職住近接」により、人口減少を克服し、湖西市の持続可能な発展による、活気あるまちづくりのため、引き続き全力投球で市政運営に邁進していきたいと思っております。

(2 平成30年度の事業実績)

市政運営の基本を述べるにあたり、まずは平成30年度の事業を振り返ってみたいと思っております。

平成30年度は、「職住近接」と「稼ぐ力の強化」をスローガンに、人口減少対策、昼夜間人口の差の解消及び定住化促進、湖西市の魅力発信による知名度の向上、関係人口の拡大等、取り組んでまいりました。

30年10月からは、新たに3事業をスタートさせていただきました。

1点目として、湖西市における子育て支援をさらに充実させるため、こども医療費の無

料化を18歳、高校生の年代まで拡大しました。

2点目として、若い世代の湖西市への移住を促進させていくために、『新婚さん「こさい」へおいでん新生活応援金』をスタートさせました。現時点において、ほぼ想定どおりの申込件数があると聞いており、まちでお会いした新婚女性の方からは「この制度を知って、結婚をきっかけに、隣の市から湖西市に住むことにしました」との声もいただきました。

3点目は、「ハッピーアニバーサリー推進事業」として、市の若手女性職員20名以上によるアイデアと商品化企画により、結婚や出産の記念として、手元に残るオリジナルの届出用紙を作成し、結婚・出産を祝福するとともに、市のイメージアップを図りました。全国の市区町村で提出できることや、各種の報道をいただいたことにより、県内外からの申込みをいただいているほか、中には、市役所に別件で来られた際、趣旨にご賛同いただき、職場の同僚や、お子さんやお孫さんへのプレゼントとして、即購入いただいた方もいらっしゃいます。また、台紙からくり抜いた部分をシールと合わせガチャガチャに入れて市役所内で販売し、隣のハッピーツリーに括りつけられるなど、「市役所しあわせスポット化計画」や、小さなお子さんが、市役所での待ち時間の間に退屈しないようにとといった、心がこもり、かつ斬新なアイデアも、若手職員が発案してくれました。

また、この1月からは、「こさい」の魅力をSNSのライン@により発信する「こさいフレンズ」を開始しました。これは、特に市外のふるさと納税者や転出者などに観光やイベント、企業・就職活動などの各種情報を発信することにより、湖西市に対する親近感を高めていただき、関係・交流人口の増加による稼ぐ力の強化、ひいては定住の促進へ繋げていくものであり、2月19日現在、約570名の登録をいただいております。

次に、市民の皆様が安全で安心して暮らせるよう、取り組んでおります防災・減災対策につきましては、

津波避難施設空白域であった日ヶ崎^{ひがさき}地区に津波避難タワーを設置し、高師山^{たかしやま}地区では、津波避難施設の設置に向けた測量や調査を実施いたしました。

また、市内の防犯灯を一斉にLED化し、省エネルギーの推進や維持管理費の軽減を図りました。

さらには、消防活動につきましては、白須賀地区第4分団の消防ポンプ自動車を更新するとともに、災害時に現場指揮活動を行う、消防本部の指揮車も更新を行いました。

子育て・教育環境の整備につきましては、

新居中学校の南校舎の外壁補修を行ったほか、こども園化を加速するため、新居幼稚園と岡崎幼稚園について、所要の設計や調査を実施しました。なお、産婦人科医院の誘致につきましては、市有地を無料で貸し付けることができる制度を創設し、残念ながら現時点では、産科施設の実現には至っておりませんが、医療法人などとの折衝を続け、引き続き子どもを産み、育てやすい環境の整備に注力していきます。

自然と環境へ配慮した取り組みにつきましては、

環境センターの焼却施設の再開に向けて、長寿命化総合計画の策定とPFI導入、旧環境センターの解体に向けて所要の調査を実施しました。

都市基盤の整備につきましては、

新所原駅において、南北自由通路と橋上^{きょうじょう}駅舎に続き、北口及び南口の駅前広場が完成しました。

また、鷺津地区の主要道路であります都市計画道路 鷺津駅谷上線の歩道未整備区間の用地取得等を行いました。

浜名湖西岸土地区画整理事業では、組合設立準備会に対して、測量・設計等の技術支援を行ったほか、アクセス道路にもなる都市計画道路 大倉戸茶屋松線^{おおくらどちややまつ}の用地取得や物件補償等を行いました。

また、将来的な宅地や商業・観光施設、優良農地や耕作放棄地の有効活用など、「職住近接」の具現化としての立地適正化計画の策定に向け、所要の準備調査を実施しました。

次に、市民の健康づくりの取り組みにつきましては、

不妊治療費助成制度に不育症の治療費助成も、加えさせていただきました。

次に、産業の振興の取り組みにつきましては、

中小企業支援コーディネーターを置いて、企業の課題等の調査を行うとともに、問題と

なっている事業承継、人手不足対策等、両商工会・職業訓練センター等の関係機関と協力して取り組みを進めました。

また、中小企業の経営強化を図るため、中小企業が持つ技術力や新製品などを幅広くPRすることができる展示会への出展を支援しました。

農業においては、施設の長寿命化を図るため、ため池、基幹水利施設、基幹農道を改修しました。

観光事業としては、昨年4月からスタートしたDMO「浜松・浜名湖ツーリズムビューロー」を中心に、^{しゅうん}舟運を使った湖の干潟体験、「紀伊国屋御膳」などのデスティネーションキャンペーンや愛好者も増えているサイクルツーリング、3月21日に開幕する「浜名湖花フェスタ 2019」など、浜松市とも連携した環浜名湖としての浜名湖観光圏整備事業を進めたほか、湖西市独自の、多くの地域活性化団体や個人の皆さんによる「浜名湖おんぱく」事業への支援を行いました。

また、湖西市を全国に発信する取り組みとして、8月のおいでん祭において、「湖西市ふるさと大使」を創設し、湖西市出身の7名と1組の方々に、委嘱させていただきました。ご自身のライブなどの活動や出演番組、SNSなどで湖西市の魅力を発信いただき、多くのファンの皆さんに湖西市を知り、訪れていただくなどの効果が出ており、今後も新たな大使候補との折衝など、更なる魅力発信や知名度の向上、PRの強化に努めてまいります。

更に、昨年末には、国際的なトロリング大会である「ヘミングウェイカップ浜名湖 2020」の浜名湖への誘致につき、キューバススポーツ庁長官との調印を浜松市や静岡県と連携し、キューバにおいて実施し、官民協力で、来年夏の浜名湖での開催が、実現することとなりました。

また、公共施設の管理運営につきまして、業務水準向上や業務の効率化を進めるため、「包括施設管理」の平成31年度からの導入に向け、現在、準備手続きをすすめております。

また、昔の市民会館に代わる新たな複合施設について、「市民会議」を開催し、「市民交流複合施設」についてのご提言をいただきました。平成31年度には、現在作成中のロードマップに基づき、各種の関係団体や市民の皆様からご意見を聴取し、具体的な構想や設計に向けた準備を進めてまいります。

以上、平成30年度を振り返り、全国的に人口減少、少子・高齢化が進む中、平成31年度も、「職住近接」をキーワードとして、市民の皆様が安心して安全に生活することができ、湖西市に住み続けたい、お子さんやお孫さんの代まで、住んで働きたいと思っていただけ

る湖西市を目指し、職員とともに一丸となって取り組んでまいります。

(3 平成31年度 予算案について)

((1) 国の経済見通しと市の経済財政状況)

続きまして、平成31年度の予算編成にあたり、国の経済見通しにおいては、企業収益が過去最高を記録する中、個人消費の持ち直しなど、経済の好循環は着実に回りつつあるとしています。米中・米朝関係のリスクや為替市場の変動等を注視する必要があるものの、内需を中心とした景気回復が見込まれるとしています。

そうした中、湖西市におきましても、平成30年度の個人市民税が平成29年度より1.5%の増、法人市民税が平成29年度より3.5%の増となる見込みから、給与所得や企業の業績が上向き傾向にあり、景気の回復を感じるころではありますが、一方で、企業の人手不足や事業承継が課題となり、特に中小企業からは、そのような話を聞く機会が多くなっています。

また、当市の財政状況は、現在、そして将来に亘り、非常に厳しい状況となっています。ここ数年の当初予算においては、財源不足から、平成29年度は9億6千万円、平成30年度は9億3千万円もの額を財政調整基金からの取り崩しにより調整したところです。また、普通交付税は、合併算定替の段階的な縮減の最終の年になり、平成30年度より2億円の減収、そして平成32年度(西暦でいう2020年度)には交付されなくなります。加えて、今年の10月に予定されている消費税率10%引き上げに伴い、法人市民税法人税割の税率引き下げによる減収、幼児教育無償化による保育料等の減収が見込まれており、平成33年度(西暦2021年度)には、普通交付税の減収と合わせ、平成30年度より6億4千万円ほどが減収と試算されるなど、極めて厳しい状況にあります。

加えて、【別紙】で配付させていただきました、湖西市の資金循環状況のとおり、市では1年に生み出される付加価値が5,700億円以上と全国1,700市区町村中・39位であるにも関わらず、市内で消費される金額は2,400億円余りと、3,300億円以上が市外に流出しています。その主な原因は2点あり、

1番目は、右上の囲みにある「市外から通勤されている方々への所得流出が約1,300億円」

2番目の、右下の囲みにある「市民の方々が、市外で買い物、外食などの消費活動に約1,500億円」

といったことから、昼夜間人口の差の解消が非常に重要であることが、データからも明らかです。

（2）平成 31 年度予算案の概要）

こうした状況を踏まえ、平成 31 年度の予算編成におきましては、厳しい財政状況の中でも、10 年、20 年先の将来を見据えたうえで、持続可能な発展のため、すべての事業において不断の見直しを実施し、限りある財源が効率的かつ効果的に配分できるよう努めました。

特に、移住も含めた定住の促進による、人口減少対策や活気あるまちづくりのため、「職住近接」をキーワードに、

①子育て支援充実

②産業の振興

③観光・シティプロモーション、

の更なる推進を重点事業として、予算を編成いたしました。

平成 31 年度当初予算額は、

一般会計	2 1 2 億 7 千万円
特別会計	1 0 5 億 9, 5 4 5 万 6 千円
企業会計	7 6 億 6, 3 3 2 万 9 千円
全会計の合計	3 9 5 億 2, 8 7 8 万 5 千円

となり、前年度と比較して 0. 9%、約 3 億 7, 1 0 0 万円の増額となりました。

一般会計においては、歳入の根幹となる市税の合計は、景気回復に伴う給与所得の増や企業の業績が上向き傾向にあることから、前年度より約 2 億 9 千万円の増額となっております。

市債は、浜名湖西岸 50ha の土地区画整理事業や、こども園化を加速するための施設改修など、持続可能な発展に向けて必要な投資的経費の増額に伴い、前年度より増額となっております。

歳出分野におきましては、歳出全般にわたり事業の見直しを行いつつ、人口減少対策としての新たな事業『住もっか「こさい」定住促進奨励金』として、若い世代の方の本市への移住・定住を促すため、市内に住宅を取得する世帯に対し、最大 100 万円の助成を行う事業を新たに計上しているほか、企業の人材確保と定住促進のため、「みらいのこさい奨学金（仮称）」として、市内に住み、地元の企業に就職する方々に対し、奨学金返還のため、

企業と連携した新たな支援制度を創設します。

本予算案について、厳しい財政状況を見据え、限られた財源を有効に活用し、市民の皆様が望む『今、必要な行政サービスの充実』と『将来にわたって魅力あるまちの実現』に向けての事業や諸施策のため、可能な限り予算を配分いたしました。

(3) 予算案「分野別の重点施策」

次に、新年度予算案の各分野における重点施策につきましては、新たな事業とこれまでの取り組みをさらに発展・深化させながら、将来のために真に必要な施策を着実に推進してまいります。

それでは、就任当初に掲げました『5つの旗』に沿ってご説明申し上げます。

まず、1つ目の、「子育て・教育支援による、幸福度日本一のまち」について、新居幼稚園と岡崎幼稚園のこども園化の加速、加えて、民間保育園等の開設支援のため、前年度比で約3億7千万円増額し、保育の受け皿をさらに拡大いたします。

また、「TOKYO2020 オリンピック・パラリンピック」に向け、事前キャンプの覚書を締結した卓球スペイン代表選手団の事前合宿を、8月に行います。

さらに、放課後児童クラブを新居小学校で新たに開設するため、所要の準備を行います。

また、産婦健康診査・産後ケア事業では、産後うつの予防や新生児への虐待予防等を図るため、産婦健康診査および産後ケア事業を新たに実施します。加えて、妊娠期から子育て期に亘る、切れ目のない支援の充実を図るため、「子育て世代包括支援センター」の機能を健康福祉センター（おぼと）内に新たに設けます。

2つ目の、「人口減少に歯止めをかけ、活気あるまち」については、

先ほども申し上げましたとおり、「職住近接」による、ゆとりある豊かなライフスタイルを実現し、若い世代の本市への定住を促進し「昼夜間人口の差の解消、及び定住の促進」を図るため、「みらいのこさい奨学金（仮称）」、『住もっか「こさい」定住促進奨励金』といった新たな制度の創設や、引き続き新婚さんの新生活や婚活イベントの支援、また各種の住宅フェアや移住・定住イベントにおいて、事業の周知・啓発活動を行います。

また、中心市街地の活性化など、高齢化や人口減少等に対応し、宅地や商業・観光施設など、職住近接のまちづくりを推進する立地適正化計画の策定のため、都市機能を誘導する区域など、具体的な検討に着手してまいります。

また、働き方改革の一環として、定常的な事務処理を自動で行うRPA（ロボティック・

プロセス・オートメーション) ソフトウェアの導入実証実験を行います。

さらに、湖西病院につきましては、杉浦病院事業管理者のもと、地域包括ケア病室の開設や診療科目の見直しを行うなど、引き続き市民の皆さんが、安心して医療を受けられるよう、医療機能の充実と、経営改善に努めてまいります。

昔の市民会館に代わる「市民交流複合施設」につきましては、先ほど申し上げたとおり、昨年末にいただいた市民会議からの提言に基づき、各種の関係団体や市民の皆様との対話により、幅広い世代が集うことができ、市をPRする機能を備えた複合施設の早期実現に向けた準備を進めてまいります。

3つ目の、「日本一おもいやりのあるまち」について、

「子育て世代包括支援センター」の機能に加え、高齢者福祉において、地域包括ケアシステムの構築に向け、各地域において第2層協議体会議を開催し、今後、地域の関係者と一緒になって、居場所づくりや買い物支援等の取組を進めてまいります。

また、利用しやすい公共交通のため、通院や買い物などの利便性向上を図るための、デマンド型乗合タクシーの白須賀地区での本格運行に加え、ご要望いただいた北部地区をはじめ、他地区での導入を進め、市民の足としての利便性の向上と、事業コストの削減に努めてまいります。

4つ目の、「いのちを守る、防災対策」について、

地震対策事業におきましては、引き続き高師山地区たかしやまに津波避難施設の整備を進めてまいります。

また、昨年の台風24号における長期間に亘る停電の教訓などを活かし、中部電力など関係機関との連携を進めるほか、自助・備蓄の大切さについて、市民の皆様へのさらなる啓発に努めてまいります。

消防活動につきましては、南分署と入出地区第7分団の消防ポンプ自動車を更新し、消防力の充実・強化を図ります。

5つ目の、「エネルギーギッシユなまち」については、

浜名湖西岸区画整理事業への支援として、前年度比で約7億2千万円を増額し、高圧鉄塔の移設や河川の付替え工事等を行います。

また、都市計画道路 大倉戸茶屋松線整備事業において、産業振興に資することに加え、市民の利便性向上を図るため、道路建設に必要な用地の取得や建物の移転補償等を行うと

ともに、用地取得が完了した区間における建設工事にも順次着手してまいります。

関係人口対策において、引き続き、ふるさと大使の皆さんによる湖西市のPRや、KSL（KOSAI SAIKO LABO）による湖西市の魅力動画発信などといった、若い世代の柔軟なアイデアの活用、SNSの積極的な活用等により、「こさい」の魅力を発信し、今まで関係や交流の少なかった転出者やふるさと納税者といった市外の「関係人口」と市とのつながりを強化し、知名度の向上、交流人口の増加、稼ぐ力の強化などへ繋げてまいります。

また、年間130万人以上が利用するJR新所原駅の南北自由通路に、いわゆるデジタルサイネージと呼ばれる「電子看板」を設置し、本市の観光やイベント、定住促進などの各種情報を発信します。

さらに、畜産業の振興及び臭気対策事業においては、静岡県内最大、2万7千頭の飼育頭数を誇る湖西市における養豚業のため、豚コレラの感染予防対策に引き続き万全を期するほか、豚舎の密閉化事業や、デオマジックなど消臭剤散布等の臭気対策を実施する畜産事業者に対し、県とも連携して支援を強化し、快適な環境下でのさらなる定住の促進に努めるほか、引き続き、企業立地促進事業や農業基盤の整備事業を推進してまいります。

加えて、観光資源の活用による観光客の誘致促進のため、新居関跡の保存整備事業では、新居関所の構内に江戸時代後期の歴史的景観をよみがえらせるため、「女改之長屋」の復元工事を実施します。また、来館者が楽しく学べるよう、CG等を取り入れたアプリを新たに作成します。

また、資源循環型社会を構築するため、環境センターでのごみ焼却再開に向けて、リサイクルプラザの長寿命化総合計画の策定と生活環境影響調査等を行います。あわせて、スマートフォン用のごみ分別アプリを配信し、転入したばかりの方や若い世代、また多言語で配信することにより、外国籍の方々にも、さらにわかりやすく情報を発信することで、ごみの分別や減量を推進していきます。

（ 4 むすび ）

これまで、平成31年度の予算案の主な取り組みについてご説明申し上げました。

かつて、日本のプロ野球界で「ドクターK」と呼ばれ、メジャーリーグに挑戦し、「トルネード旋風」を巻き起こした野茂英雄投手は、

「挑戦すれば、成功も失敗もあります。でも挑戦せずして、成功はありません。挑戦しないことには、始まらないのです。」

と語っています。

市政においても、新たなことに挑戦を続け、直面する課題に対し、フットワークを活かして迅速に対応し、市民の皆様とともに、中長期的な湖西市の将来ビジョンを描き、10年後、20年後といった、子どもたちの将来のため、湖西市の未来のため、更に「全力投球」してまいりますので、引き続き、議会をはじめ、皆様方のご支援ご協力を、どうかよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。

(以 上)

湖西市内のお金の流れ

地域の稼ぐ力は強いが産業が特化しており、市外への所得流出が大きい構造である。

